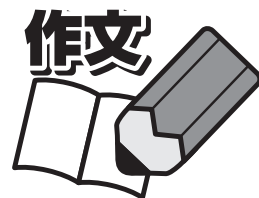


全国コンクール 優秀賞

群馬県コンクール 金賞



通学路は緑のじゅうたん

富岡市立高瀬小学校 4年 松倉 昊生

ぼくが住んでいる富岡市には、世界文化遺産に登録され、国宝にも指定された「富岡製糸場」があります。その富岡製糸場と「鐺川」という川をはさんだ向かい側が、ぼくの家や学校がある「高瀬」地区です。

高瀬はほとんどが平らな土地なので、昔から畑や田んぼが多く、「高瀬田んぼ」とよばれていて、農家の人がたくさんいます。

そんな高瀬でぼくは育って、今は小学校へ通っています。通学路は、高瀬田んぼの真ん中を歩いていきます。平らで、さえぎるものが何もないので、夏はギラギラの太陽に照らされて暑いし、冬は冷たい風がピューピューふきぬけて、とても寒いです。四年間、この通学路を歩いていましたが、特別に考えたことはなく、毎日当たり前のように歩いていました。

今年の夏、小学校二年生になった東京のいとこが、富岡に遊びにやって来ました。いとこと出かけて、車でいつもの通学路を通っていた時のことです。いとこが、

「緑のじゅうたんみたい！！きれいだね！！」

と言ったのです。ぼくにとっては当たり前前の風景が、田んぼのない東京に住んでいるいところにとっては、特別な風景に見えた様です。何だかぼくはうれしくなって、高瀬田んぼの好きなところを考えてみました。

田んぼに水が入ると、いっせいにカエルの大合しょうが始まります。夜はうるさいぐらいの大きな声にあっとうされます。田んぼの中にどこからともなく現れる「カブトエビ」を探すのも楽しみです。恐竜がいた二億年も前からいるといわれるカブトエビは、すごくかっこいいです。それから、田植えが終わったころやってくる「カモ」や「サギ」も、とてもかわいいです。登下校の時に友だちと見つけたり、お母さんと車で通った時に観察したりしています。もし高瀬田んぼがなかったら、ぼくは田んぼのすてきなところを、ずっと知らずにいたかもしれません。

高瀬小学校の四年生は、毎年稲作体験をしています。一学期までに、もみまき、しろかき（はだしでどろんこ）、田植えの体験をしました。それぞれ初めての体験で、おもしろかったり大変でしたが、それも学校行事の一つだと、ぼくは思っていました。

だけど、この夏のいとこの一言で、ぼくの考え方は変わりました。毎日の通学路で、緑のじゅうたんの中を歩いて行けること。その緑のじゅうたんの中には、たくさんの生命があふれていること。緑のじゅうたんを農家の人がどうやって作っているのか、体験させてもらえること。それは当たり前のことではなく、特別ですばらしいことでした。

夏休みが終わって学校が始まると、緑のじゅうたんがだんだん黄金色のじゅうたんになっていきます。黄金色の高瀬田んぼの通学路を、ぼくは元気に歩いて登校したいと思います。